

## テーマ2：農地、森林の保全

農地は、食料生産の場としてだけではなく、環境保全や自然災害を防止する機能、また、森林も癒しの空間の醸成や環境保全など、ともに重要な役割を有している。こうした多面的な機能を持つ農地や森林を緑の資源として保全する取り組みを促進する。

### 現状と課題

四日市市の農業の現状は、農家戸数については、平成12年は5,382戸⇒17年は4,859戸（9.8%減）、農地面積は12年3,947ha⇒17年3,373ha（14.5%減）となっており、1戸当たりの経営面積も0.67haと小規模となっている。

こうした状況の中で、農業経営者の高齢化や後継者不足による担い手の不足、農産物の価格低迷や分散した狭小な土地条件による生産性の低さが大きな課題となっている。

特に、農業生産の基礎となる農地について、耕作が行われず遊休化している農地が、全国的な傾向と同様に近年急増しており、市の単独事業で優良農地に復元化する取組を実施しているものの、その面積は平成17年現在で、291ha、5年前に比べて15ha増加し、これは本市の農地面積の約7.3%を占め、土地利用上も課題となっている。また、市街化区域内の生産緑地（171.9ha）においても、一部耕作が行われずに、農地として有効活用されていないところがある。

農地の遊休化を抑制し、優良な農地を保全するためには、地域農業の担い手を確保するとともに、遊休化のおそれのある農地を地域の担い手等に集積していくことが必要となっている。

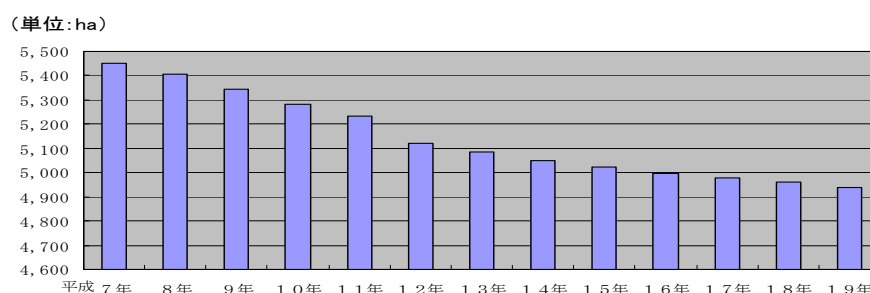
また、森林については、私有林が大半を占め、個人保有の面積も極めて零細で、施業も粗放となるのはやむを得ないのが現状であり、森林全体の面積についても年々減少（平成15～19年度までの5年間で約553haの減）してきており、人の手が入らず放置された里山では竹林化しているところもある。

農地や森林については、資材置き場等への土地利用転換や丘陵地の土取り等により、優良な農地や良好な自然環境等にふさわしくない土地利用も徐々に広がってきている。

このように、農地や森林は、年々その面積が減少し、遊休化や荒廃が徐々に進行してきているのが現状であり、それを保全することが課題となっている。

### 農地(田・畑)面積の推移

◆データ：三重の統計情報より◆



## リーディングプロジェクト

### (優良農地の保全・集約化)

農地の集約化や新たな農業の担い手の掘り起こし等により農業振興を図るとともに、農業者間で農地の貸し手と借り手を結びつけたり、NPO、農業法人、農業関係機関等が貸し出し希望する農地を借り入れ、耕作希望者等への転貸を行うなどの農地を保全する仕組みづくりや雇用施策と連携した働く場所としての新たな農地保全策について検討を行う。加えて、消費者等の一般市民による市民菜園等の農地活用も視野に入れた検討を行う。

また、産業としての農業が後継者不足、専業農家の厳しい経営環境などの課題がある中、農地の守り手として重要な役割を担ってきた兼業農家も含め、集落営農組織の設立など継続して農地を保全できる施策についても検討する。あわせて、適正に管理されていない生産緑地についても、市民農園として活用するなど優良農地として保全するための施策について検討する。

### (森林の保全)

里山等の森林の保全については、市民緑地制度の活用などによる市民活動の促進にあわせ、市民・市民活動団体・企業・行政等と連携した新たなしくみを構築する。

また、農地としての利用効率が悪く耕作が放棄された農地を自然に返し、森林として保全することや土地開発公社が所有する森林用地を活用した森林の保全策などについて検討を行う。

## 森林面積の推移

(単位：ha)

